

二枚爲公卿殿上人座

〔台記〕保延二年十二月廿五日戊午、今日興福寺參賀也。○中裝束、東對南庇四ヶ間敷差筵、副北並

東障子立四尺屏風

〔台記別記〕久安五年十月廿五日癸酉充催入内諸國所課。○中一差筵、伊豫、讃岐、備中、備後

安藝、周防、美作、已上各六枚

〔園太曆〕貞和四年十二月二日甲子、著束帶參仙洞御錫紵事爲申沙汰也。○中中間廊立廻屏風二帖

○註其内敷差筵二枚、其上敷綠緣疊

〔康富記〕嘉吉三年六月廿四日戊申、參伏見殿講尺述而篇、依風吹雨降於御座敷内、被敷差筵者也、予

候障子内差筵

〔朝野群載朝儀〕伊勢齋王○善歸京國々所課

山城國○中折席百枚○中

嘉承二年十一月廿八日

〔朝野群載朝儀〕左辨官下、山城國○中

折席百枚○中

嘉承二年十二月四日

右大史紀朝臣

以形狀爲名

〔類聚名物考調度〕長筵、ながむしろ

〔堤中納言物語〕よしなしごと

人のかしづくむすめをゆへだつそうしのびしのびてかたらひける程にとしのはてに、山寺にこもるとて、たびのぐに、むしろたゝみ、たらひ、はんざう、かせといひたりければ、女ながむしろ、なにかや一やりたりける、